



診療放射線技師について

放射線室で働いている医療者、あるいは病棟で大きな機械を押して青のエプロンをつけて病室をまわっている医療者を見かけたことがありますか？その人は、「診療放射線技師」と呼ばれる医療従事者です。今回は診療放射線技師について理解と知識を深めていただこうと思います。

【診療放射線技師ってなあに？】

放射線を医療・診療のために用いる専門技術者のことを「診療放射線技師」と呼びます。よく「レントゲンさん」と声をかけられますが、正確な名称は診療放射線技師といえます。

認定された診療放射線技師養成学校で3年以上の必要な知識を習得した者に国家試験受験資格が与えられます。国家試験に合格すると、技師免許が与えられます。

【診療放射線技師のお仕事は？】

画像検査・放射線治療・放射線管理などを行っています。画像検査はX線を用いた胸部や骨の撮影・

CT検査などがあります。放射線は、有用に使用すれば病気の診断・治療に役立ちますが、間違っていると大変危険です。放射線による事故や障害が起きないように、且つ放射線被ばく低減のため線量測定や線量管理もしています。

【患者さまとのかかわり】

診療放射線技師は放射線や磁気装置を取り扱う専門職です。撮影をしたり治療に携わったりとさまざまなところで画像のプロとして患者さまと深く関わりをもっています。また、大きな装置を目の前にして不安に感じることもあるでしょう。その不安を取り除くのも診療放射線技師の大切な仕事です。その他放射線被ばくに不安があったり、検査内容について詳しく聞きたい場合などありましたらお気軽にお声をかけてください。



■ 外来担当医表

	月	火	水	木	金	土	
外 来	初 診	坂本	徳田	中矢	柚木	岡	交代制
	再 診	中矢	徳田	坂本	上田 (午前のみ)	岡	中矢
検 診	岡	坂本	柚木	中矢	徳田	交代制	
心工コ一		坂本		坂本			
透 析	徳田	上田	岡・徳田	岡	柚木	交代制	
内 視 鏡					山元		

※主治医が外来当番日ではない日にこられた場合、主治医名を看護師にお知らせ下さい。 ※何かわからないことがありましたら、遠慮なく看護師におたずね下さい。

▶ 当院では各々の専門認定医による下記の専門外来も行っております。

循環器専門外来

肝臓専門外来

腎臓専門外来

🕒 診療時間のご案内

● 受付時間 (月曜日～土曜日)

午前8時30分～午前11時45分 / 午後1時15分～午後4時50分

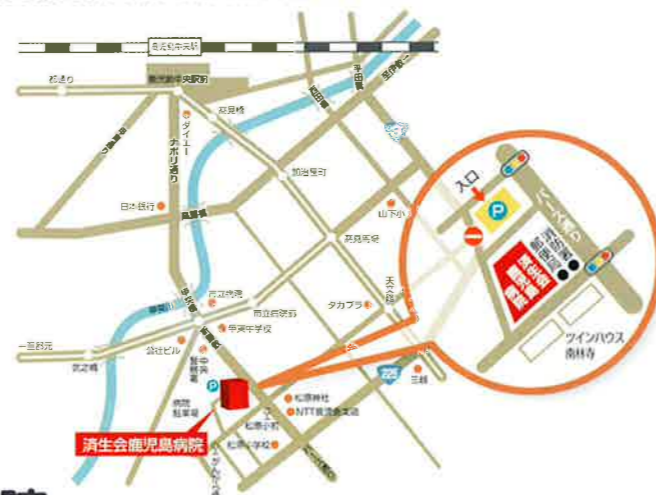
● 診察時間 (月曜日～土曜日)

午前8時45分～午後0時15分 / 午後1時15分～午後5時00分

🚗 交通のご案内

● 市電 新屋敷電停から徒歩5分・天文館電停から徒歩10分

● 市営バス(13番線) 松原小学校前バス停から徒歩1分
かんがら橋バス停から徒歩1分



社会福祉法人 恩賜財団 済生会鹿児島病院

〒892-0834 鹿児島市南林寺町 1-11 ☎ 099-223-0101 FAX 099-227-4790
URL: <http://www.synapse.ne.jp/saiseikai-kag/kagoshima/index.html> E-mail: saiseikag@orange.ocn.ne.jp



社会福祉法人 恩賜財団 済生会鹿児島病院

「広報誌」

済生かごしま

SAISEI KAGOSHIMA



日本医療機能評価機構認定病院



クリスマスイルミネーション(当院にて)

基本理念

「救療済生」の済生会精神に則り、地域の人々の健康を守り、福祉に貢献する。

基本方針

- 1 私達は、患者様から信頼され、満足していただける医療を目指して、常に患者様の立場に立ち、患者様の気持ちになって医療を行います。
- 2 私達は、患者様の権利を尊重し、患者様の意思に添えるよう努めます。
- 3 私達は、常に医療に気を配り、患者様が安心して医療を受けられるよう努力します。
- 4 私達は、最新の医学知識や医療技術の習得に研鑽します。
- 5 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が病院に求めている要望に応えられるよう努力します。

患者の権利と責務

「患者様には、守られるべき次の権利があります。」

- 1 その人格を尊重される権利があります。
- 2 社会的地位・国籍・人種・性別などにより差別をうけることなく、公平・平等に医療を受ける権利があります。
- 3 いつでも最善の医療を受ける権利があります。
- 4 自分が受けている医療の安全に関するすべての情報について知る権利があります。
- 5 治療を受ける権利、自ら治療方法を選ぶ権利、また自ら治療を拒否する権利があります。
- 6 自分に関するすべての個人的秘密を守ってもらう権利があります。
- 7 自分の受ける医療についてセカンド・オピニオン(別の医師の意見)を申し出る権利があります。

「患者様には、次の責務があります。」

- 1 診療行為に協力すること。
- 2 療養に専念すること。
- 3 病院の決まりを守ること。

No.12
Dec.2008

発行/済生会鹿児島病院

薬局だより ▶ 肺炎球菌ワクチンについて

肺炎は抗生剤などの薬剤の進歩により治療できるようになってきました。ところが近年、抗生剤が効きにくい肺炎がでてきています。高齢者の肺炎の主な原因となる病原体となっているのが肺炎球菌です。肺炎球菌ワクチンはその肺炎球菌によって引き起こされるいろいろな感染症を予防するためのワクチンです。このワクチンは肺炎球菌以外の原因による感染症に対しては残念ながら予防効果はありません。しかし、肺炎の予防、肺炎球菌による「肺炎になっても軽症ですむ」、「抗生剤が効きやすい」など効果のあるワクチンです。

次のような方に接種をお勧めします。

- ★高齢者（65歳以上の方）
- ★腎不全や肝機能障害のある方
- ★心臓や呼吸器に慢性疾患のある方
- ★糖尿病の方
- ★脾臓摘出などで脾機能不全のある方

◎効果の持続期間

接種後、免疫ができるまで平均3週間程度かかります。1回このワクチンを接種しますと、一般的に5年間以上免疫が持続するといわれております。ただし、現在のところ日本では接種は1回だけしか認められておりません（注射部の痛みなどの副反応が強くなることもあるため）。

◎ワクチンの接種時期

肺炎球菌ワクチンは季節を問わず年中いつでも可能です。またインフルエンザワクチン接種と両方のワクチンを接種することで、より高い肺炎予防効果がえられます。両方のワクチンは6日以上あけると接種することができます。

◎副作用

接種後、注射部位の張れ・痛み・軽い発熱が見られることがありますが、通常、2～3日でおさまります。このワクチンの成分により肺炎を引き起こすことはありません。

◎ご注意

- * 全ての肺炎を予防するものではありません。
- * 接種を受けることができない場合もありますので、主治医にご相談ください。
- * 費用は脾臓摘出の患者様以外は自由診療のため全額自費となります。また自由診療のため各病院で金額が異なります。自治体によっては助成を行っている場合もありますので、お住まいの市町村役所にご確認ください。

※当院でも肺炎球菌ワクチンの接種を行っておりますが、予約制となっております。事前に医師にご相談ください。

TOPICS トピックス

*癒しの広場*****

近年、地球温暖化現象が問題視されています。国際的なCO₂削減、都市の緑化など諸々の対策が立てられています。鹿児島市では市電軌道敷きの芝生化も最近話題になっております。その中で屋上緑化も対策の一つに挙げられています。当院でもエコロジーに取り組みたいとの意向もあり、屋上緑化と併せて患者さん達の癒しになればと思い計画し、3月より作業開始しました。

場所は4階屋上一部で、先ず花壇のブロックの取り付け、これが一番の難関でした。なにせ全くの素人2人が見よう見まねでの作業ですので悪戦苦闘しました。癒しの中心樹木（シマトネリコ）3本は患者さんの家族（プロ）の見立



てで植木市にて購入、樹木が5メートル以上ある為、4階屋上への運搬が大変でした。土は約3トン、樹木の植付け、コーナー用「あどくの木」の鉢植え、もっこうバラ、花壇の花の植付け、池の設置（金魚・めだかが泳いでいます）、そして屋根を張り（これも患者さんの手助け）、最後にテーブルを置き完成。現在は金魚の餌やりは患者さんにお願ひし、花も季節に合わせて植え替えています。今夏は少し野菜等も栽培し収穫出来ました。入院患者さんのご家族の方から以前は緑を見に1階に降りていたが、今は屋上で憩っている「ありがとう」のお礼の言葉を戴き、苦勞も吹き飛びホッとしました。

今は年の瀬に入り、樹木を利用したイルミネーションでクリスマスを迎えたいと準備しているところです。また今後は、今少し花壇を広げ、来春には「菜の花畑」をお見せ出来ればと考えています。皆さん一度4階屋上へ見に来てください。お待ちしております。



*病院ボランティアを通して*****



ボランティアの本木さん

私は大学院修士1年より、社会福祉法人済生会鹿児島病院で週一回の病院ボランティアをさせていただきました。対人援助職を目指していきにあたり、この一年半のボランティア活動では貴重な体験をすることができ、とても多くのことを学ぶことができました。

初めてボランティアで病院に行った時、自分がボランティアとして何ができて、どこまでやっていいのかということがわからずに迷いました。そのような時スタッフの方々はとても親切に話を聞いてくれました。これまで病院は患者として行く場所であったのが、スタッフの一員として患者さんと関わる場所となりました。医療領域で働きたいと考えていたので、病院で働くという感覚を感じることもできたのではないかと思います。

ボランティアの中では、様々な患者さんと関わらせて頂きました。昔先生をされていた患者さんはとてもしっかりされていて、子どものころの話や戦争の話をしていただきました。会話はできないけれど、手を合わせると笑顔になって「よかったね」と言う患者さん。鹿児島弁がわからないけれど、昔の病院のことについて話される患者さん。音楽が好きで、食堂にあるオルガンが弾きたいと話していた患者さん。私のことを自分の息子と思われる患者さん。思い出すととても多くの患者さんと関わらせていただきました。

ボランティアとして患者さんの話を聞いていると、昔のつらいことを話されることがありました。話を聞いていると涙を流されることもありました。いつもベッドで寝ている患者さんと散歩に出かけると、花をみて喜んでいました。ピアノを弾きたいと言っていた患者さんと一緒に食堂のオルガンを弾きに行くと、とても生き生きとした眼で他の患者さん達とも一緒にやりたいと話されていました。自分がボランティアとして患者さんといること、何か貢献できたのではないかと考えることも経験することができました。

今まで名前を覚えていてくれていた患者さんに「誰だ?」と言われてたり、1週間前までしゃべっていた患者さんが次の週には亡くなってしまったというようなことがありました。療養病棟には高齢者の患者さんが多く、認知症で記憶がまいになっていくことや亡くなっていくなど、受け入れなければならない現実が多くあると感じました。患者さんにとって、病院とは人生の最後を過ごす場でもあるのだということを痛感しました。患者さんの人生の最後に関わって、自分には何が出来るのだろうかということは課題であり、これから先も考えていかなければならないと感じました。

また病院スタッフの皆さんとの職場内外での関わりの重要性を感じました。看護師や薬剤師から話を聞くことで患者さんの理解を深めることができました。

病院ボランティアを通してとても多くの貴重な経験をさせていただきました。済生会病院の皆様にはとても感謝しております。ありがとうございました。